

令和7年度 中央区地域包括ケアシステム 推進会議（第1回）

令和7年（2025年）8月28日（木）
熊本市 中央区役所

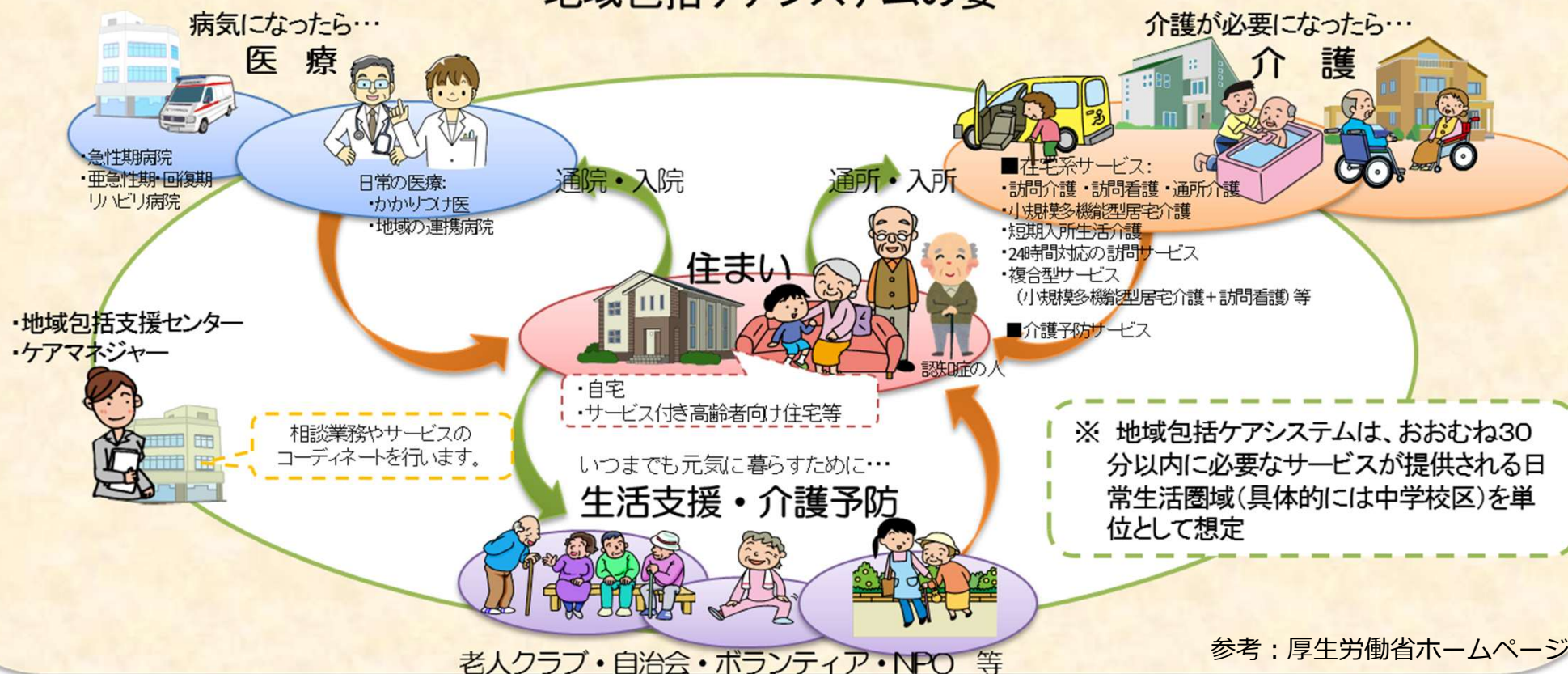
議事（１）

地域包括ケアシステム概要

① 地域包括ケアシステムとは

- 高齢者が、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を推進**するものです。
- 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要です。
- 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市や、75歳以上人口の増加は緩やかで人口が減少する町村など、**高齢化の進展状況には地域差**が生じています。地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要**です。

地域包括ケアシステムの姿



参考：厚生労働省ホームページ

熊本市における2040年問題

我が国の総人口は、近年、減少局面を迎えており、約50年後の令和52年（2070年）には、9000万人を割り込み、現在の7割程度まで減少すると推測されています。一方で、65歳以上の高齢者人口は、令和25年（2043年）まで増加傾向が続き、その後、減少に転じるものの、総人口に対する65歳以上の人口の割合（高齢化率）は一貫して上昇を続け、令和52年（2070年）にはおよそ4割に達すると推測されています。

中央区においては同様に、全体の人口が減少する中で、高齢者数は増加する傾向にあり、高齢者人口がピークを迎える令和22年（2040年）頃には、4人に1人が高齢者という状況になることが見込まれています。

参考：熊本市・くまもとはつらつプラン（第9期）

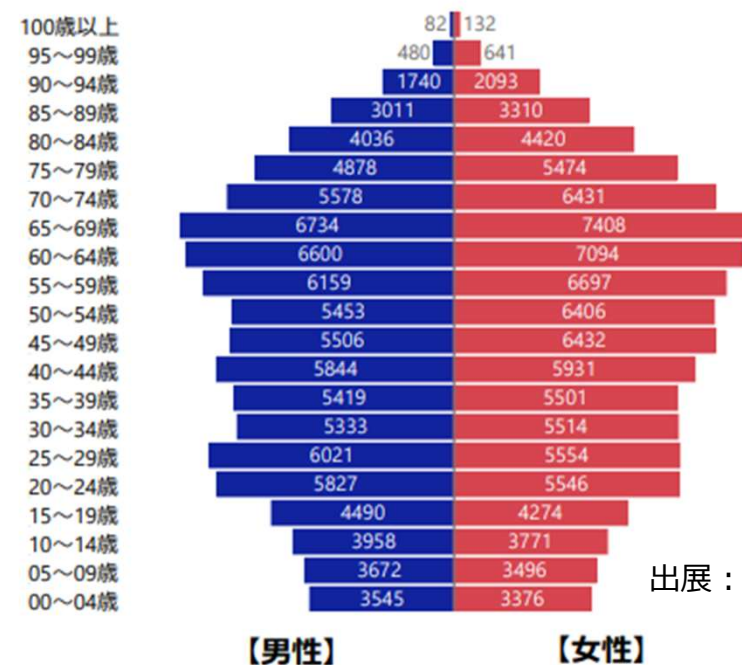
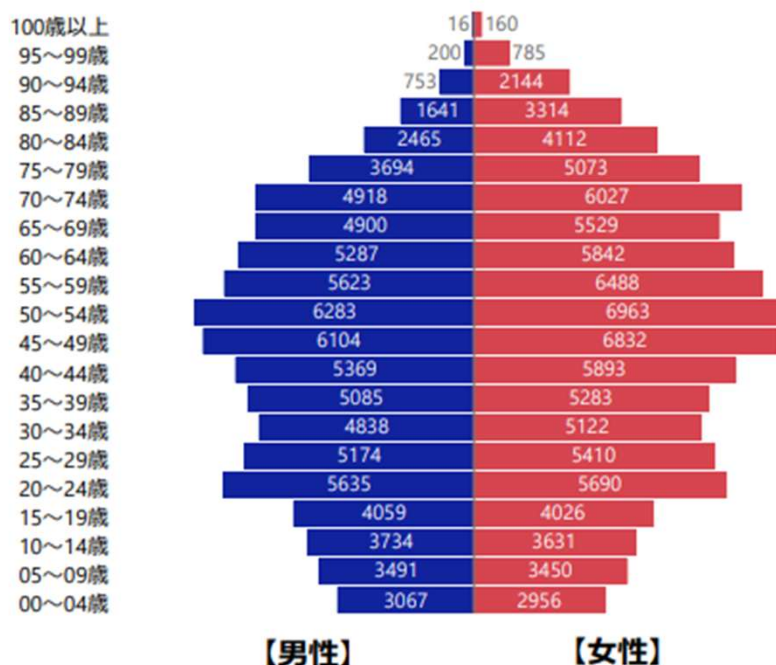
人口構成と将来推計

【2023年(R5年)】

【2040年(推計)】

中央区

【人口】 **177066** 人 【世帯数】 **98065** 世帯 【高齢化率】 **25.8** %（市全体：**27.2** %） ※2023年時点



出展：熊本市健康カルテ
第3版により

② 中央区地域包括ケアシステム推進方針

I 策定の趣旨

中央区地域包括ケアシステム推進方針は、「熊本市総合計画」の分野別計画に位置付けられる「くまもとはつらつプラン（熊本市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画）」に基づき、中央区における地域包括ケアシステムの推進、深化していくために必要な基本目標や取組等を定めたものです。

II 中央区がめざす地域包括ケアシステムの姿

中央区では、“～ つながって、支えられたり、支えたり ～” 健康でいきいきとした暮らしを心から喜べる、幸せなまちを目指します。

III 期間

平成29年度（2017年度）から 令和8年度（2026年度）まで

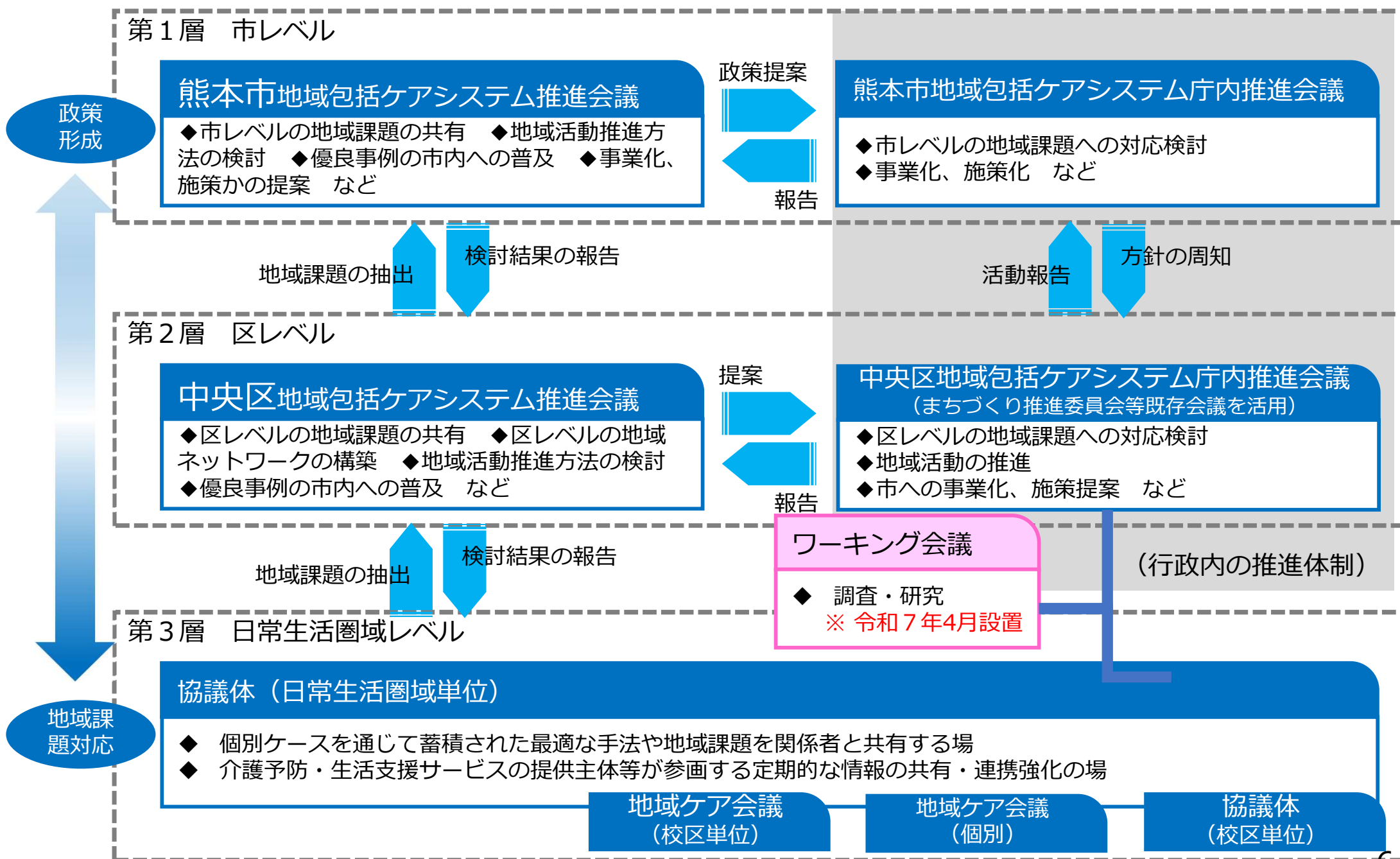
IV 中央区の推進方針

自宅等住みなれた場所で最期まで暮らすという選択ができ、それを支える総合相談・活動拠点づくりに区民全員参加で取り組みます。

<中央区の基本目標>

1. 老いに負けない健康づくりと介護予防に取り組もう！
2. これまでの経験から役に立てることはまだある。生きがいを見つけて外へ出よう！
3. 当事者の気持ちに添えるよう多職種で力を合わせよう！
4. いざという時もみんなで支え合えるよう、日頃から声をかけ合う近所づきあいをしよう！

③ 推進体制



中央区地域包括ケアシステム推進ワーキング会議

(経緯)

中央区地域包括ケアシステムの推進・深化を図るため、令和7年（2025年）4月にワーキング会議を設置。本年度2回（5・6月）開催し、地域課題の抽出や必要となる取組の検討作業を行っている。

(目的)

中央区地域包括ケアシステムの構築に向け、次の事項について、調査・研究を行うもの。

- ① 基本方針の策定
- ② 地域課題の現状分析・課題整理
- ③ 地域活動の推進
- ④ 事業計画策定及び事業進捗管理
- ⑤ その他、地域包括ケアシステムの構築に必要な事項

(構成)

関係機関（ささえりあ・障がい者相談支援センター・社会福祉協議会）

専門機関（医療機関・介護保険事業所等）

庁内関係課（総務企画課・各まちづくりセンター・保健こども課・保護課・福祉課）

その他高齢者福祉施策に見識を有するもの

(本年度のスケジュール)

	令和7年度（2025年度）											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
【市】推進会議								会議 政策提案				
【中央区】推進会議					第1回 報告						第2回 報告	
【中央区】ワーキング会議	調査・研究（継続）											
		WG①	WG②				WG③		WG④			

議事（２）

これまでの取組と第１層への
政策提案について

④ これまでの取組

(取組状況) ※平成29年度～令和6年度

年度	区の取組
平成29年度 (2017年度)	区推進会議設置要綱の制定 <u>区推進会議 (10月、2月)</u> ① 地域包括ケアシステム概要 ② 区の推進方針 (案) ③ 中央区地域包括ケアシステムの進め方について
平成30年度 (2018年度)	区推進方針の策定 <u>区推進会議 (8月、1月)</u> ① 区の推進方針について ② 中央区地域包括ケアシステムの進め方について ③ 生活支援コーディネーターの実践取組 ④ 各団体の取組状況 お互いさまのまちづくり研修会 (7月、10月)
令和元年度 (2019年度)	<u>区推進会議 (9月、2月)</u> ① 地域包括ケアシステム概要 ② 区の推進方針について ③ 関係機関や行政の取組と課題 ④ ささえりあ (圏域ごと) の取組 ⑤ 「自立支援型地域ケア会議から抽出された地域課題」の報告 ⑥ 「住み慣れた場所で人生の最期まで過ごすための医療と介護の連携」に関する専門機関 (医療・歯科医療・介護) からの報告 お互いさまのまちづくり研修会 (8月) ※ささえりあ 職員研修会 (12月)
令和2年度 (2020年度)	被災者健康支援事業 (11月) ※ささえりあ <u>区推進会議 (11月) ※新型コロナの影響により書面開催</u> ① くまもとはつらつプラン骨子案への意見徴収 ② 新型コロナウイルス感染症に対応した本市の取組への意見聴取 ③ 取組状況の照会 認知症サポーター養成講座 (2月) ※ささえりあ お互いさまのまちづくり研修会 (2月) ※ささえりあ

年度	区の取組
令和3年度 (2021年度)	介護予防サポーターへのアンケート調査 (4月～翌年2月) <u>区推進会議 (8月) ※新型コロナの影響により書面開催</u> ① これまでの取組の振り返り ② 2025年までに重点的に取り組むべき課題に関する意見徴収
令和4年度 (2022年度)	<u>区推進会議 (9月)</u> ① これまでの取組状況 ② 今後取り組むべき課題と具体的・重点的な取組 ③ 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施について (情報提供) お互いさまのまちづくり研修会 (9月～12月) ※ささえりあ
令和5年度 (2023年度)	<u>区推進会議 (8月、2月)</u> ① これまでの取組状況 ② 今後取り組むべき課題と具体的・重点的な取組 ③ 中央区の重点的取組に関する活動報告 ・「食」の活動からつながるお互いさまのまちづくり研修会 ・担い手づくりと通いの場の活動 お互いさまのまちづくり研修会 (7月～翌年2月) ※ささえりあ
令和6年度 (2024年度)	<u>区推進会議 (7月、2月)</u> ① 地域包括ケアシステム概要と推進体制 ② 区推進方針とこれまでの取組状況 ③ くまもとはつらつプラン (第9期) 策定について ④ 生活支援における移動手段の取組※のるーと上熊本 ⑤ 関係機関や行政、ささえりあ等からの活動報告 お互いさまのまちづくり研修会 (11月～12月) ※ささえりあ

※ 別添「資料2 中央区地域包括ケアシステムの推進に向けたこれまでの取組状況」をご参照ください。

④ これまでの取組

基本目標1 老いに負けない健康づくりと介護予防に取り組もう！

- (1) 「校区単位の健康まちづくり」を推進する
- (2) 多様な介護予防活動の拠点をつくる

【主な取組】 特定健康診査受診勧奨
健康づくりボランティア育成
元氣くらぶの立ち上げ支援

基本目標2 これまでの経験から役に立てることはまだある。生きがいを見つけて外へ出よう！

- (1) シニア世代一人ひとりが地域の支え手として活躍できる機会を拡げる
- (2) 介護が必要になっても自分らしい生き方が継続できる地域をつくる

【主な取組】 介護予防サポーターマッチング
高齢者向けのスマホ教室
地域デビュー講演会の開催

～ つながって、支えられたり、支えたり ～
健康でいきいきとした暮らしを心から喜べる、幸せなまち

- (1) 当事者（要介護者・家族）の日々の暮らしに寄り添える医療・介護サービスを行う

【主な取組】 ACP（人生会議）の推進
在宅医療介護連携の促進
中央区地域と企業等を結ぶ応援事業

基本目標3 当事者の気持ちに添えるよう多職種で力を合わせよう！

- (1) 老いも若きも、元気な人も、支援が必要な人も、共につながって支え合う地域をつくる
- (2) 認知症高齢者を正しく理解し対応できる地域をつくる
- (3) 災害に負けない「おたがいさま」で支え合う地域をつくる
- (4) 声をかけ合う近所づきあいの輪を拡げる

【主な取組】 認知症サポーター養成講座
自主防災クラブ結成支援

基本目標4 いざという時もみんなで支え合えるよう、日頃から声をかけ合う近所づきあいをしよう！

④ これまでの取組

＜通いの場の支援＞



＜介護予防サポーターマッチング＞

◆「介護予防で日本を元気にする会」に委託し
R5年度より施行、R6年度から本格運用開始。

通いの場支援 R5 27件 R6 69件
生活支援 R5 0件 R6 1件

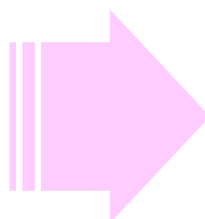
◆R5～介護予防サ
ポーターの希望者
に「げんき体操ト
レーナー」の養成
講座開始



＜認知症サポーター・認知症キッズサポーター養成講座の開催＞

認知症サポーター養成数（累計）

	平成29年度
全体	19,179人
うち小中学生	533人



	令和6年度
	34,352人
	3383人



④ これまでの取組

＜お互いさまのまちづくり推進事業＞

【「食」の活動からつながるおたがいのまちづくり】

【人生会議】

【おひとり暮らしの看取り】

「食」の活動からつながる お互いさまのまちづくり



⑤ 政策提案

(政策提案) ※昨年度

年度	中央区の提案	市の対応方針
令和6年度 (2024年度)	包括的・重層的支援について 区として多様な相談に対応できるよう包括的・重層的支援ができる部署の設置が必要。 また、地域共生社会の実現に向けて、多様な主体がつながり相互理解が深まるよう、区単位での予算・協力体制の整備を図ることが必要。	- 第5次計画の方針等に基づき、今後、孤独・孤立を切り口とした様々な複合等の課題を抱える当事者等に対して、庁内・各区関係課を含めた官民連携による相談・支援体制の拡充等を図る。 - 昨今の高齢者・障がい者・こども等に対する包括的・重層的な相談・支援体制等へニーズが高まっていく中で、各区の相談等の体制拡充にあたって、必要な体制や予算・人員等についての協議を双方向で検討。
	移動支援について ライドシェア・介護予防サポーターマッチング（乗降介助や外出付き添い等）を基に、多様な主体（各種民間企業・医療福祉関係機関等）と連携した生活支援に係る移動手段の確保が必要。	令和5年度から介護予防サポーターと地域ニーズとのマッチングを行う仕組みづくりに取り組んでおり、現在の実証を踏まえ、介護予防サポーターの活動の場を創出していくことで、多様な生活支援の提供を推進。
	移動支援について 介護保険でも通院時等乗降介助による受診や行政手続き等の移動支援はできるが、計画に基づくサービス利用であり緊急時の対応など柔軟な活用ができない。	- 乗合タクシー及びA Iデマンドタクシーの運航を継続し、公共交通空白地域等における移動手段を確保。 - 持続可能な公共交通の実現に向けて、コミュニティ交通のサービス水準等について検討。
	在宅医療、在宅介護について 住民が希望すれば自宅や生活圏域の施設などで最期を過ごすことができる選択肢が選ばれるように、在宅医療や在宅介護の啓発、身近な地域での医療・介護・福祉・地域の連携ができる仕組みづくりが必要。	- 令和6年度にメッセージノートの改定を予定しており、熊本市在宅医療・介護等連携協議会で協議しながら改定作業を行う。 - 熊本市在宅医療・介護等連携協議会で4つの場面ごと（日常の療養支援、入退院支援、急変時の対応、看取り）に目指す姿や取組を共有し、市全体や各団体同士の連携による具体的な取組ができるように支援。

※ 過去の政策提案は、別添「資料3 中央区地域包括ケアシステム推進会議から市への提案及び市の対応方針」をご参照ください。

本年度の政策提案

- ① 通いの場や生活支援の移送課題に対応するため、既存の事業の拡充を含め持続可能な仕組みにしてはどうか
(ささえりあ本荘)
- ② ACP（人生会議）に関連した取組を市全体に拡充してはどうか
(ささえりあ子飼)
- ③ 継続的に栄養改善を図る取組として、短期集中予防サービスの対象者拡大や管理栄養士や食生活改善推進員など専門職が継続的に支援できる取組を市全体で構築してはどうか
(ささえりあ帯山)

通いの場や生活支援の移送課題に対応するため、既存の事業の拡充を含め持続可能な仕組みにしてみようか

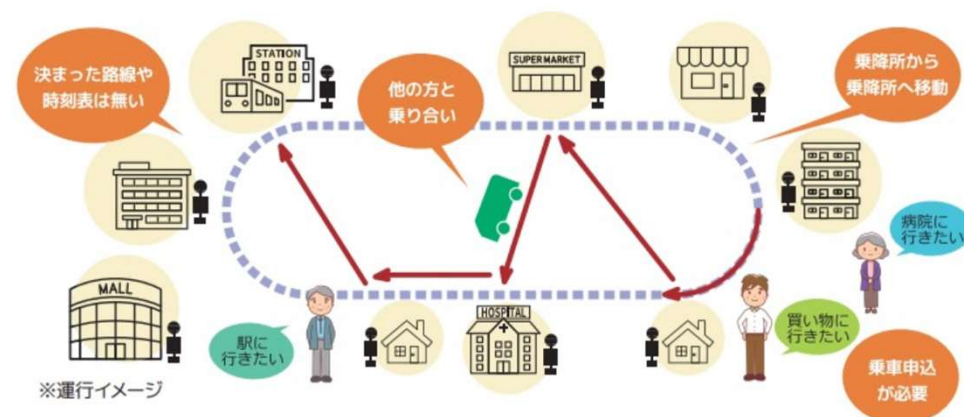
○「チョイソコくまもと西南」実施地域の拡大

○支援する側の高齢化により運転者の確保や運転者技術が難しくなっていることを踏まえ、住民主体による地域支え合い型サービスの補助金対象者（運営者）の基準について、訪問介護や訪問看護等の事業者も対象となるよう緩和を検討できないか。

○また、移動支援の運営費の見直し（補助金の増額）を検討できないか。

○まちづくりセンターの連携の下、地域と企業を結ぶ応援事業の活用はできないか。

※チョイソコくまもと（AIデマインドタクシー）：公共交通空白地域を含む地域における、バスや鉄道といった基幹公共交通との接続や、地域内における日常の移動手段の確保を目的としたAI（人工知能）配車システムを搭載した予約制の乗合タクシー。



ACP（人生会議）に関連した取組を市全体に拡充してはどうか

○ACPの意思決定支援について、人生の最期をより身近に考えてもらうために、「当事者視点の学習ゲーム」や「最後はどぎゃんするカード」など、視覚的に分かりやすく、当事者の視点を体験できる具体的なシナリオを取り入れた学習ツールを熊本市全体で開発し、校区社協や通いの場などで推進してはどうか。

○こうした地域を基盤とした取り組みを、医療・介護・福祉の多業種・多職種が連携してサポートし、普及啓発のみならず、平時・災害時のネットワークの構築につなげてはどうか。

※ACP（アドバンス・ケア・プランニング）：人生会議。もしものときのために、望む医療やケアについて、前もって考え、繰り返し話し合い、共有する取組。

対話カード「最期はどぎゃんする？」 住民一人ひとり、意思の形成を促し、意思の決定を支援するツール

設定 余命は半年。今日から半年。
あなたは何を大切にしたいですか？

①8枚のカードからあなたが大切にしたいこと3枚を選びます。
②3枚を選んだ理由をグループで共有します。

- 参加自由・他者の考えを批判しない
- お互いの価値観を尊重する
- 言いたくないことは言わなくてよい
- 1人でずっとならべられない
- 価値観は変化するものそのときの気持ちでOK
- 「オリジナルカード」や「質問カード」あり

オリジナルカード

(例)

いそいそ 家で最期を 迎える	しぜつ 施設で最期を 迎える	信頼できる 医療・介護 チームがいる	じょうだん 冗談や無駄話 ができる
すきなものを 食べる	いた 痛みや 苦しみがない	ふあん 不安がない	たいぜつ 大切な人や物と 過ごす 時間がある

質問カード

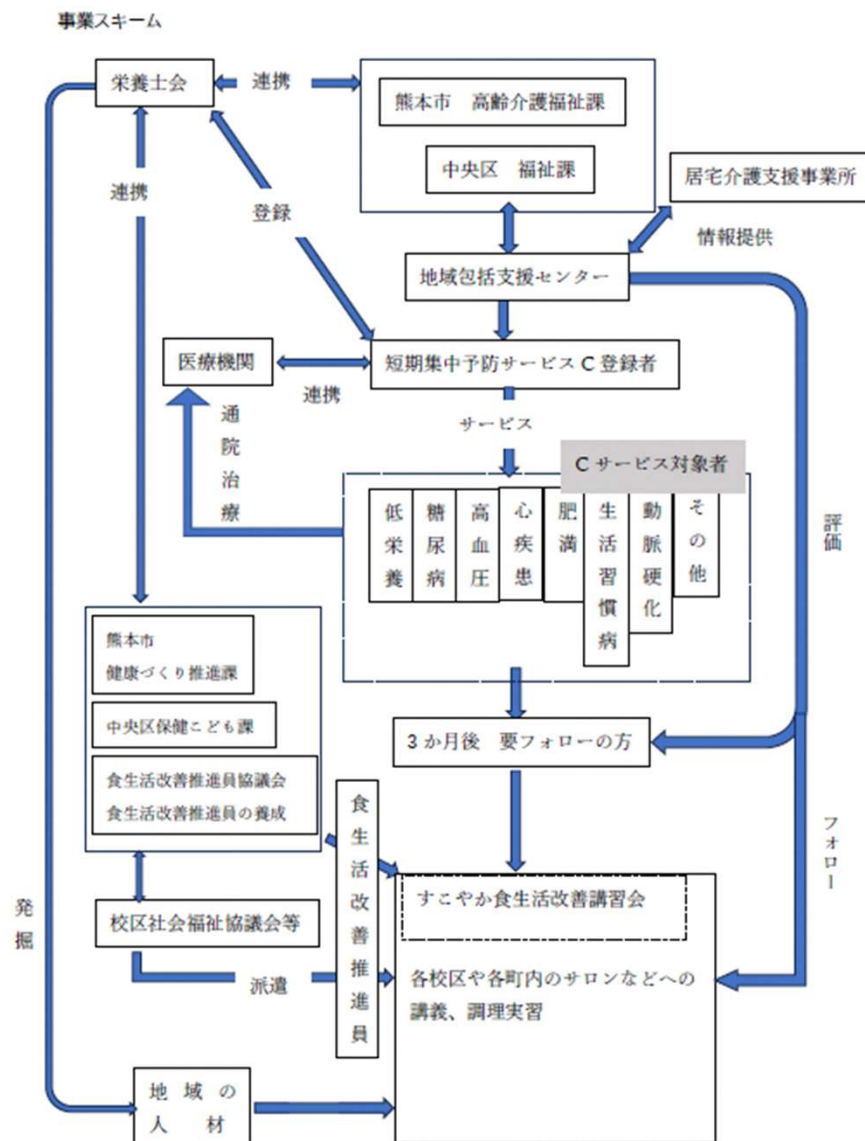
訪問診療や 訪問看護など 在宅医療は 選べる？	もし認知症が 進行したら 誰が決める？	とくになつたあと 残ったお金や 物は誰が 整理する？	家族を 呼ぶと どうなる？
施設では どんな最期が 送れるの？	最期は「誰」が どう変化 する？	死後の事務は 誰がやる？	なくなる 瞬間も いい？

○対象の拡大:要介護状態に陥いる原因となる「低栄養」に限らず、要介護の原因となる脳血管疾患を予防するため、肥満や高血圧、糖尿病などの生活習慣病へのアプローチを増やす。

○期間の延長と移行支援:3か月から6か月に延長し、さらに1年後のフォローもできるように短期集中予防サービスの拡充してはどうか。

○継続的な支援を行うため、地域にいる食生活改善推進員、管理栄養士や栄養士、調理師等専門的知識を持った人材の活用、連携してはどうか。

※短期集中予防サービス：高齢者が要介護状態にならず、健康寿命を延ばすことを目的に、運動器・口腔の機能が低下している又はその恐れのある者、栄養改善が必要な者に対し、運動器の機能向上・口腔機能向上・栄養改善のプログラムを短期集中的に実施し、生活機能の低下またはその恐れを予防し早期の自立支援・重度化防止を図る。



議事（３）

第２期に向けた取組について

スケジュール / 中央区推進方針（第2期）策定まで

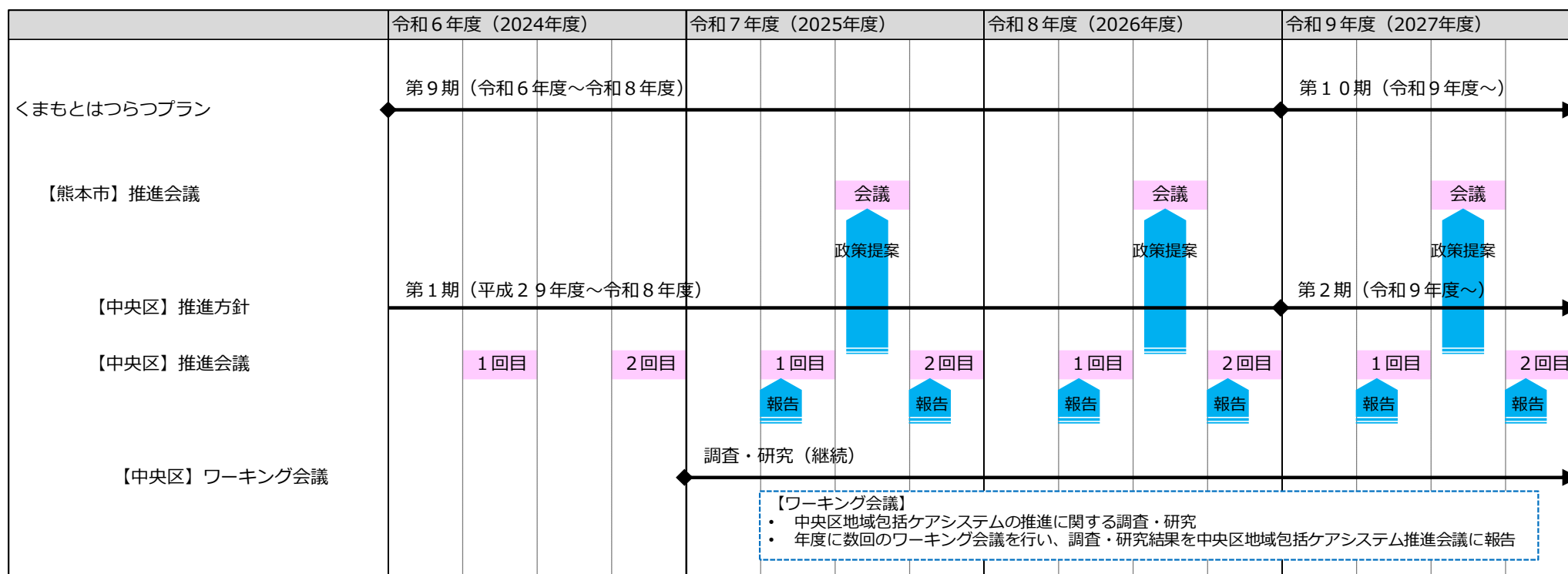
中央区地域包括ケアシステム推進方針（第2期）策定までの流れ

- 中央区の推進方針（第2期）については、くまもとはつらつプラン（第9期）に併せ、令和9年度（2027年度）からを計画期間として策定。

令和7年度（2025年度） 推進方針（第2期）骨子を作成し、【中央区】第2回推進会議へ提案

令和8年度（2026年度） 【中央区】推進会議において、推進方針（第2期）を策定

令和9年度（2027年度） 推進方針を基に、地域包括ケアシステムを推進



ワーキング会議による調査・研究

ワーキング会議（第1回）

日時 令和7年（2025年）5月19日（月）

参加者 26人（各ささえりあ、まちづくりセンター、総務企画課、保護課、保健こども課、福祉課）

作業内容

- これまでの取組の情報共有
- 2040年に向けた課題の洗い出し
- 今後、重点的に取り組みたい項目の検討

（2040年を見据えた課題）

㊦ 高齢化の進展と社会の変化

- 85歳以上の高齢者が増加
- 単身独居の高齢者が増加
- 認知症の人が増加
- 後期高齢者への支援が増大
- 骨粗鬆症や糖尿病など、健康課題が増加
- 高齢者の在宅生活における人材不足

㊩ 医療費や介護費に関わる財政圧迫

- 高齢者の増加に伴い医療費が増大
- 介護保険サービスへの影響
- 生活保護申請が増加
- 糖尿病による合併症など、要介護者が増加

㊧ 担い手不足

- 自治会役員の高齢化
- 自治会加入率の低下
- 民生委員のなり手不足
- ボランティアの高齢化
- ヘルパー不足に伴い在宅介護サービスが不足
- 医療、福祉に携わる職員が不足

㊨ ニーズの多様化と地域の希薄化

- 障がいのある方が高齢化し、課題が複雑化する
- 地域住民同士の交流の希薄化
- 孤立化、孤独化
- 世代間の分離
- 買い物支援、移動支援が必要な人が増加

ワーキング会議による調査・研究

ワーキング会議（第2回）

日時 令和7年（2025年）6月2日（月）

参加者 25人（各ささえりあ、まちづくりセンター、総務企画課、保護課、保健こども課、福祉課）

作業内容

- 重点的取組について、連携できること
- 重点的取組の優先順位

（区で連携できる優先的な重点取組）

㊦ 自立支援や重症化予防

- 短期集中予防サービスの終了後も継続して自立支援・重症化予防を図るための集いの場の拡充
- 介護予防を継続するための受け皿づくり
- 通いの場への移動支援

㊩ 高齢者の生きがいの創出

- 意欲のある高齢者と、活躍できる場のマッチング促進
- 世代間で情報技術を活用できる人とできない人の格差（デジタルデバイド）を埋めるための取組
- 地域のボランティア活動を活性化するため、くまもとアプリの普及を進める。
- 元気なうちに自分らしい生き方に気づいてもらう人生会議（ACP）の普及促進

㊧ 地域で支え合う体制

- 地域住民同士の交流を促進するための取組
- 孤立防止のため、地域と繋がる機会を増やす取組
- 学校やこども会を通じ、若い世代に自治会活動や見守り活動を知ってもらう取組

㊨ 認知症高齢者の見守り体制

- 認知症サポーターやキッズサポーター講座に親子で参加してもらう取組
- 地域の行事等で、認知症への理解や対応に関する周知・啓発を強化する取組

令和7年度の中央区推進会議の流れ

	令和7年度（2025年度）											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
【市】推進会議								会議 政策提案				
【中央区】推進会議					第1回 報告						第2回 報告	
【中央区】ワーキング会議	調査・研究（継続）											
		WG①	WG②				WG③		WG④			

ワーキング会議（第3・4回）

日時 令和7年（2025年）10月、12月（予定）
参加者 各ささえりあ、まちづくりセンター、総務企画課、
保護課、保健こども課、福祉課、ほか

作業内容

- 重点的取組の検討（さらなる絞り込み）
- 推進方針（第2期）の骨子、指標（案）の検討

中央区・推進会議（第2回）

日時 令和8年（2026年）2月（予定）
参加者 委員

議題（案）

- 報告（ワーキングによる調査・研究）
- 推進方針（第2期）の骨子
- 推進方針（第2期）の指標（案）



推進方針（第2期）の基本目標、評価指標等

第2期の基本目標、取組の方針について

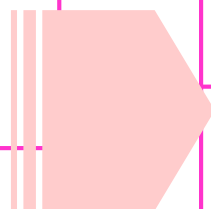
- 第1期の推進方針は、中央区地域包括ケアシステムにおけるこれまでの取組や基盤づくりの重要な指針となっています。
- ワーキング会議においては、これまでの取組を踏まえつつ、今後予想される課題や重点的に取り組む事項について、2040年を見据えた検討を進めます。
- 第2期推進方針にあたっては、現行方針を大きく変更することなく、取組項目を検討し、長期目標となる方針作成を行う予定です。
- 第2期3年間は、現在ワーキング会議で検討している重点事項を中心に取組を進めます。

評価指標（参考）について

- 熊本市総合計画、くまもとはつらつプラン等の上位計画との整合性を図りながら、推進方針（第2期）の評価指標について検討を行います。

評価指標（参考）

基本目標（第1期）	アウトプット評価（結果）
1. 老いに負けない健康づくりと介護予防に取り組もう！	- 地域において健康づくりに取り組んだ回数 - 各種検診受診率 - 健康づくり、介護予防にかかわるボランティアの育成と活動支援サポーター養成数
2. これまでの経験から役に立てることはまだある。生きがいを見つけて外へ出よう！	地域活動に参加した市民の割合
3. 当事者の気持ちに添えるような多職種で力を合わせよう！	- ACPの認知度 - 地域ケア会議
4. いざという時もみんなで支え合えるように、日頃から声をかけ合う近所づきあいをしよう！	- 認知症に関する相談窓口の認知度 - 平時からの防災に向けて計画や校区連絡会の支援



評価指標案
<u>65歳以上の元気な高齢者の割合</u> （定義） 65歳以上の高齢者の内、要介護・要支援の認定を受けていない者の割合
<u>地域における通いの場の数</u> （定義） 地域で開催されているサロン活動や介護予防活動の場 （例）元気くらぶ、通所B、いきいきサロンなど
<u>地域活動に参加した市民の割合</u> （定義） 熊本市第8次総合計画の市民アンケート「あなたとは、過去1年間に地域活動（自治会等の活動、ボランティア、NPOの活動な）に参加したことがあるか」の問いに参加したことがあると回答した65歳以上の割合
<u>チームオレンジの数及び認知症サポーター</u> （定義） 「熊本市チームオレンジ」として認定した地域団体数及び認知症サポーター養成者の数

議事（４） 意見交換

2期の重点取組について、各団体が連携して取り組めることについて

(Memo)

各部署からの情報提供

- ① 中央区健康まちづくり事業について（保健こども課）
- ② くまもとアプリの利活用について（地域政策課）

※別添「資料4 中央区健康まちづくり事業について」

「資料5 くまもとアプリの利活用について」をご参照ください。